

第 2 回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙①

応 募 者 に 関 す る 情 報

記入日： 20012年12月10日

応 募 者 情 報																						
応 募 団体名	(フリガナ) ニッポンユウビンカブシキカイシャ (団体名) 日本郵便株式会社 <small>※協働プロジェクトでの応募の場合は、代表団体名以下プロジェクトに参加している 主な団体名をご記入下さい。</small>																					
応 募 担当者 連絡先	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">団体名：</td> <td colspan="2">日本郵便株式会社</td> </tr> <tr> <td>所在地：</td> <td colspan="2">100-8798 東京都千代田区霞ヶ関1丁目3-2</td> </tr> <tr> <td>部署名：</td> <td colspan="2">郵便事業総本部 総務部 環境・社会貢献室</td> </tr> <tr> <td>役職名：</td> <td colspan="2">室長</td> </tr> <tr> <td>氏 名：</td> <td colspan="2">渡 邊 栄</td> </tr> <tr> <td>TEL：</td> <td style="width: 30%;">03-3504-4401</td> <td>FAX： 03-3592-7620</td> </tr> <tr> <td>E-Mail：</td> <td colspan="2">nenga-kifu.ii@jp-post.jp</td> </tr> </table>	団体名：	日本郵便株式会社		所在地：	100-8798 東京都千代田区霞ヶ関1丁目3-2		部署名：	郵便事業総本部 総務部 環境・社会貢献室		役職名：	室長		氏 名：	渡 邊 栄		TEL：	03-3504-4401	FAX： 03-3592-7620	E-Mail：	nenga-kifu.ii@jp-post.jp	
団体名：	日本郵便株式会社																					
所在地：	100-8798 東京都千代田区霞ヶ関1丁目3-2																					
部署名：	郵便事業総本部 総務部 環境・社会貢献室																					
役職名：	室長																					
氏 名：	渡 邊 栄																					
TEL：	03-3504-4401	FAX： 03-3592-7620																				
E-Mail：	nenga-kifu.ii@jp-post.jp																					
ホームページ	http://www.post.japanpost.jp/kifu/ http://blog.post.japanpost.jp/csr/																					
<p>応募団体の主たる事業（※行政の場合は、記入は不要。最大2000字入力できます。詳細は別紙添付可）</p> <p>日本郵便株式会社は、郵便の業務、銀行窓口業務及び保険窓口業務並びに郵便局を活用して行う地域住民の利便の増進に資する業務を営むことを目的としています。</p>																						

第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙②

応募するカーボン・オフセットの取組についての基礎情報 (1次審査での重点ポイント)

応募に関して、写真（JPEG 等）や概要図（PDF 等）は別途メール等で事務局までお送りください。

応募の際にいただいた資料は返却いたしません。あらかじめご了承ください。

※記述欄が不足する場合は、用紙の追加も可能ですが、応募用紙②全体で A4 用紙 3 ページ以内にまとめてください。

※第1回カーボン・オフセット大賞の1次審査を通過した事例一覧もご参照ください。

URL : http://www.carbonoffset-network.jp/award1st/entry_datalist.html

1. 応募するカーボン・オフセット活動の名称・タイトル

「カーボンオフセット寄附金付きはがきによるカーボン・オフセットの大規模な実施／普及推進／オフセット・クレジット創出支援活動」

認証番号：4CJ-0900007(平成21年度)/4CJ-090022(平成22年度)/4CJ-1000054(平成23年度)

(参考：<http://www.4cj.org/label/anken01.html/>)

2. カーボン・オフセット活動の概要

<カーボン・オフセットの分類>

以下の4分類からひとつを選び、□に✓をつけてください。

- 商品使用・サービスオフセット
- 会議・イベントオフセット
- 自己活動オフセット
- 自己活動オフセット支援

【参考】

環境省による「カーボン・オフセット第三者認証基準(Ver.1.1)」に基づく分類

http://www.jcs.go.jp/pdf/document/ki_jun.pdf

<カーボン・オフセット対象・・バウンダリ>

カーボン・オフセットの取組内容に関して、オフセットの対象範囲をお書きください。

対象範囲は、カーボンオフセット寄附金付きはがきの購入者の家庭生活による排出 CO2。オフセットが行われるのは、同はがき購入者の寄附金額に相当するクレジット量。

仕組みはカーボンオフセット寄附金付きはがきに付加された1枚当たり5円の寄附金を同はがき購入者が負担し、当社がほぼ同額(2012年は1枚当たり約3円弱)をマッチング寄附金として寄附した。この合計額が同はがき1枚当たりの寄附金となり、これによりクレジット(排出権)を取得・消却(無効化)し、同はがき購入者の家庭生活による排出 CO2 を寄附金額に応じてオフセットした。

また、郵便事業株式会社の寄附金により、地球温暖化防止活動を行う非営利団体に活動助成を行った。

<カーボン・オフセットの取組の実施期間>

カーボン・オフセットの実施期間についてお書きください。その際、2010年1月1日以降にカーボン・オフセットを実施継続している事例または2010年1月1日以降にカーボン・オフセットを開始した事例であることが応募にあたっての必要要件となりますので、御注意ください。

当社のカーボン・オフセットの取組は、郵便事業株式会社(現 当社)発足時(2007年10月1日)に開始し、京都議定書第一約束期間(2008年~2012年)の5年間を期間として実施。

カーボンオフセットを寄附目的とした寄附金付きはがきの発行は、平成24年用年賀はがきを以って終了したが、一般の寄附金付年賀はがきの寄附金を原資とした助成事業の1事業として、オフセット・クレジットの取得・無効化、カーボン・オフセット活動助成、地球環境保全活動助成を行っている。

<カーボン・オフセットの取組に関する情報提供方法>

自社 HP 等、カーボン・オフセットの取組をウェブに掲載されている場合は、URL を記載願います。

当社ホームページに、カーボン・オフセット取組に関する情報を掲載。また、機会をとらえてメディア掲載や郵便局窓口ロビーでのポスター掲載・チラシ配布等を積極的に行っている。

参考：
<http://blog.post.japanpost.jp/csr/cat14> カーボン・オフセット関係記事掲載
<http://blog.post.japanpost.jp/csr/2012/02/120213.html> カーボンオフセットはがきのカーボン・オフセット推進活動の5年間報告
<http://blog.post.japanpost.jp/csr/2009/09/post-35.html> カーボンオフセットはがきのカーボン・オフセット認証

3. 1次審査項目

①自らの行動に伴う温室効果ガスの排出量の認識

カーボン・オフセットの取組内容に際して、排出量の算定についてお書きください。

(自己活動オフセット支援)

①-3 利用者に帰属する排出対象活動

利用者の家庭生活による CO2 排出量のうち、利用者の寄附金額に比例する排出量をオフセット支援する。

カーボンオフセット寄附金付はがき 1 枚当たりのオフセット量は事業年次により異なるが約 3kg。同はがき 100 枚の購入により、購入者の家庭生活による排出量のうち、約 300kg のオフセットを行ったこととなる。

カーボンオフセットはがきはこのようなオフセットを身近に、容易に行うことを支援している。

①-4 利用者に対する排出量の提示方法

購入者に対しては事業実施年次の完了ごとに上記の当社ホームページにおいて、詳細な報告を行っている。購入者はホームページを参照し、同はがき購入枚数を乗じることにより、オフセット量を知ることができる。

また、エコ・アクション・ポイントと連携し、一定枚数以上の利用者に対しては、自らのオフセット量をエコ・アクション・ポイントのマイページに登録することにより、個人別に見える化を可能とした。報告はホームページに掲載。

②排出削減努力の実施

取り組まれた排出削減努力について該当とする取組に✓をつけてください(複数可)。なお、取組のアピールも含めた詳細については、応募用紙③「1. CO2 排出削減努力と関係者の理解や協力」に詳しく記載して下さい。

節電 節水 廃棄物の減量化 省電力機器の導入 公共交通機関の利用・呼びかけ

その他 (①はがき購入者には削減努力をイベント・メディア掲載・チラシで呼びかけ。②地球温暖化防止活動助成による各種活動の排出削減努力が助成先団体により行われた。③当社は電気自動車の導入等により削減を図った。)

③オフセットの手続き

<カーボン・オフセットに利用したクレジット等の種類>

使用したクレジット等の種類をお書きください。なお、異なるクレジットを併用した場合の各割合(%)についても記載してください。【例】J-VER(O%)、CER等(Δ%)など

平成 24 年度の排出権事業では、CER、J-VER の合計は約 31 千トンであり、うち CER が約 26 千トン(83.6%)、J-VER が約 5 千トン(16.4%)。平成 20 年度～平成 23 年度については、当社ホームページ上で公開。

<http://blog.post.japanpost.jp/csr/2012/01/120126h23.html> 平成 20～23 年度報告

<カーボン・オフセットに利用したクレジット等のプロジェクト名称>

使用したクレジット等の具体的な温室効果ガス削減・吸収プロジェクト名をお書きください。

事業助成により実施したプロジェクトは 17 件あり、当社ホームページ上で公開しています。

<http://blog.post.japanpost.jp/csr/2012/01/120126h23.html> 平成 20～23 年度報告

<カーボン・オフセットに利用したクレジットの無効化に関する状況>

取消、償却実施年月、もしくはその予定についてお書きください。

事業助成により実施しており、多数、多年次にわたるために記載ができません。当社ホームページ上で公開しています。

<http://blog.post.japanpost.jp/csr/2012/01/120126h23.html> 平成 20～23 年度報告

第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙③

応募するカーボン・オフセットの取組についてアピールポイント (本審査での重点ポイント)

応募に関して、写真（JPEG 等）や概要図（PDF 等）は別途メール等で事務局までお送りください。

応募の際にいただいた資料は返却いたしません。あらかじめご了承ください。

※記述欄が不足する場合は、用紙の追加も可能ですが、応募用紙③全体で A4 用紙 4 ページ以内にまとめてください。

※第 1 回カーボン・オフセット大賞の 1 次審査を通過した事例一覧もご参照ください。

URL : http://www.carbonoffset-network.jp/award1st/entry_data_list.html

1. CO2 排出削減努力と関係者の理解や協力

- ①CO2 排出削減努力の項目（内容）について、期待した効果とその成果について具体的かつより定量的にアピールしてください。
- ②CO2 排出削減努力の必要性・重要性について関係者の理解と協力を得るにあたっての工夫とその成果をアピールしてください。

- ①一般の方々が日常的に削減努力を行っておられるが、削減努力のみでは達成し難いカーボン・ニュートラルもカーボンオフセット寄附金付きはがき購入という身近で容易な方法により、視野に入るといことで、削減努力に弾みがあった。地球温暖化防止活動助成により、地域や学校において削減努力や吸収増大努力が行われ、多くの成果があった。5 年間で約 6, 500 万枚のカーボンオフセットはがきが差し出され、受け取られた方はもとより、多くの人々に CO2 削減努力の必要性や、オフセットによる実質的削減についての啓発がなされた。
- ②広く一般の方々に CO2 削減努力や、カーボン・オフセットによる実質的削減可能性につき、カーボンオフセット寄附金付の年賀はがき、夏のお便利郵便はがき（かもめ〜る）による呼びかけは大きな効果があった。年賀はがきの時期に年賀はがきの PR とともにカーボンオフセットはがきの PR を行うことにより、浸透効果が高かった。

2. カーボン・オフセットの内容

- ①自らが行うカーボン・オフセットの取組の意義・重要性について、社会にもたらす波及効果などの観点も踏まえてアピールしてください。
- ②自らが行うカーボン・オフセットの取組の継続性、展開への意欲や見通しについてアピールしてください。

- ①本事業は日頃カーボン・オフセットとは縁遠い一般家庭の方々が、身近な年賀はがき購入という行為を行うだけで、数百 kg のオフセットを容易に行うことができる仕組みを世の中に提供し、はがき購入者自らがカーボン・オフセットを行うことにより、実質的に削減を可能にする手段を身近に提供した。これによりカーボン・ニュートラルさえも個人が視野の中にするのが可能となった。例年約 1, 500 万枚、5 年で約 6, 500 万枚のカーボンオフセット寄附金付はがきを購入いただき、また、差し出したことにより、CO2 削減とカーボン・オフセットを呼びかけた。事業開始当初は、カーボン・オフセットという言葉を知ったことさえなかった人が殆どであったが、数年のうちにこの言葉を知らない人はほとんどなくなったということは、身近な年賀はがきにリンクしてカーボン・オフセットを行い、社会に浸透するという役目は大いに果たしたものとする。
- ②この事業は京都議定書第一約束期間の 5 年を対象とした事業であったが、環境を意識される方々の間では地道なファンが多く、同はがきには固定の利用者層が存在した。また、地球温暖化防止活動助成、クレジット取得消却（無効化）助成も果たした役割は大きく、これらの継続を望む声もあり、当初の 5 年以降も助成原資を年賀寄附金に求めることにより、次の 3 つの活動をセットとして助成事業は継続することとなった。
 - (1) オフセット・クレジットの取得・無効化事業
 - (2) カーボン・オフセット活動の助成
 - (3) 地球環境保全活動の助成

3. 環境、地域・社会、産業振興等の貢献性

次の①～④のいずれか（複数可）の観点での貢献性についてアピールしてください。

- ①自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する河川・湖沼をはじめとする内水面や土壌・大気あるいは生物多様性といった自然環境への配慮や保全などの環境の面での貢献
- ②自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する地域・社会への経済的便益や効果、第1次産業と他産業との連携促進、地域活性化や一村一品活動の拡大などの地域・社会の面での貢献
- ③自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する中小企業振興や産業基盤にとって重要な安定的なエネルギー供給・確保、環境と調和した市場の牽引などの産業振興の面での貢献
- ④自らが行うカーボン・オフセットの取組から波及する国際貢献等、さまざまな面での貢献

- ①J-VER クレジットが開始された時期に、同クレジットを安定的に購入する助成事業が存在することが広く知られ、クレジット創出活動のインセンティブとなった。同クレジットの開始当初1～2年間は、創出クレジットの相当量をカーボンオフセット寄附金助成事業により取得・無効化した。それによりJ-VER クレジットの創出気運の醸成、森林育成が加速し、現在の年間20万トン以上のクレジット登録実現の一助となった。
- ②地球温暖化防止活動事業により、多くの活動が行われ、自然環境への配慮・保全のための事業が多く行われた。
- ③J-VER クレジットの創出を推進するカーボンオフセットはがきの助成事業により、森林保全や、森林材料による地域事業が創出された。
- ④バイオエネルギーによる地域産業創出が企図された。木質ペレットの製造・流通が盛んになりつつある。森林事業への支援により、東日本大震災地域への重点支援を行った。
- ⑤CERの取得・消却助成により、途上国への還元が行われた。
(例：アフリカ連携の環境活動で使用した太陽光蓄電ランプをアフリカ諸国に提供し、子供たちの夜間勉学の道を拓いた。)

4. 普及啓発の創意工夫とその成果

- ①自らが行うカーボン・オフセットの取組について第三者である市民に伝え、理解者の裾野を広げ巻き込み、「自分ごと化する」ために行った創意工夫（イベントの開催やツールの開発等）についてアピールしてください。
 - ②人々や社会に与えた影響（行動様式や考え方の変化）について、実際に得られた反響も踏まえてその成果をアピールしてください。
- ①カーボンオフセットはがきの活用が寄付金を環境保全に投入することになり、社会や環境に自ら参画して寄与できることを伝え、その説明をイベントやメディアに於いて機会をとらえ、行った。
エコ・アクション・ポイントの仕組みを活用し、カーボンオフセットはがきの購入とそれによるオフセット量のリンク付けを行い、個人別にWEBサイトにマイページを持つことにより、個人のオフセットの見える化を可能とした。
 - ②例年同はがき購入を行い、環境へ寄与しようという層があった。

5. ストーリー性

- ①自らが行うカーボン・オフセットの取組についての「魅力」「面白さ」「ユニークさ」などをアピールしてください。
 - ②こうした「魅力」「面白さ」「ユニークさ」について、それを第三者である市民に伝えるために行った創意工夫についてアピールしてください。また、低炭素社会の実現にどのように貢献しているのか、アピールしてください。
- ①CO2削減努力は当初こそ、それなりの成果が見えるが、次第に努力を尽くして、削減効果が見えにくくなる。ましてや、CO2ゼロを目指すカーボン・ニュートラルへの道筋は見えない。ところが、年賀はがきを100枚購入すれば約300kgのオフセットを行うことが出来て、カーボン・ニュートラルも視野に入る。商品・サービスに付加された寄附金はカーボン・ニュートラル市民を作り出す、楽しい取り組みとできる。
 - ②1年分全てカーボン・ニュートラルにすることは難しいが、1日あるいは1週間のカーボン・ニュートラルをある地域や、グループや家庭や個人で行うことはできる。このためのクレジットを年賀助成を活用して入手し、実際に関係者に配布して実感して貰うことはカーボン・オフセットの身近化に効果が大きいと考える。

以上に記載された取組について別途説明資料がございましたら、PDFの場合はメールでお送りいただくか、現物資料を郵送ください。

また、公開可能な商品・サービスの様子がわかる写真を（JPEG等）お送りください。

第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙一式 送付先およびお問い合わせ先

カーボン・オフセット推進ネットワーク事務局
(担当：入山、井上)
〒東京都港区芝公園3-1-8 芝公園アネックス7階
電話 03-5776-1223 ファックス 03-5472-0145
E-Mail award@carbonoffset-network.jp